



War Cry

1月号

福音版
2022
January
No.2828

二〇二二年 一月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

神様の約束に目を向けましょう

司令官 スティーブン・モーリス

明けましておめでとうございませう。この新しい年に神様の祝福が皆様の上に豊かに注がれることをお祈り申し上げます。

ワシントンDCで働きをしていた時のことです。責任をもっていた施設の一つ

で、クリスマスから新年にかけて暖房が効かなくなっていました。いくつかの業者に電話しましたが、点検を断られたので、自分でその現場に行ってみると、建物全体に暖房を送るボイラーに名刺が貼ってあるのに気づきました。そこで、そこに書かれていた番号に電話をかけてみたのです。

すると、この会社は調べに来てくれただけでなく、電話口の男性は、一九六〇年代にこの施設が建てられた時に暖房設備を設置した本人だったのです。長年にわたり、この男性はこの建物は何度も訪れ、生じた問題に合わせて部品を新たに作ったりしながら解決してくれていたそうです。設備を設置したこの人自

身が、私たちの問題を解決できる数少ない一人だったのです。他の業者は、最新の設備を導入するように、としか言いませんでした。

新しい年を迎えて、その一年の抱負を掲げる慣習は、世界各地で見られます。歴史を見ても、人類ははるか昔から、新しい始まりにあたって新たな決意をするという目的意識をもっていたことがわかります。

もし皆さんも毎年抱負を掲げるなら、今年は、がんばらなければ、とプレッシャーを感じる約束をする代わりに、神様があなたに用意してくださっている約束を見つけてみてはどうでしょうか。神様は決して失望させることのない方であり、私たちの期待を裏切ったことはありません。神様の約束は真実です。そして今年も、自分の抱負がどれほど達成できたかを考えるよりも、神様が一〇〇%成就してくださる約束に目を向けてみてはいかがでしょうか。

神様は私たちに御言葉（ミことば）を

与えてくださっており、その中には三千以上の約束があります。ここにご紹介するのは、ほんの一部です。一、神様は真実で、信頼できる方である。

「約束してくださったのは真実な方なのですから、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかりと保ちましょう。」（ヘブライ人への手紙10章23節）

二、神様はいつも私たちと共におられる。「わたし（神）は、強く雄々しくあれと命じたではないか。うるたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」（ヨシュア記1章9節）

三、神様は、私たちに豊かな人生を約束してくださる。「盗人が来るのは、盗んだり、屠つたり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたし（イエス・キリスト）が来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」（ヨハネによる福音書10章10節）

四、神様の臨在は喜びをもたらす。「（神は）命の道を教えてください。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い 右の御手から永遠の喜びをいただきます。」（詩編16編11節）

五、神様は私たちを目的をもってデザインされた。「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」（エペソンの信徒への手紙2章10節）

施設の暖房設備を設置した男性が、修理のために最もふさわしい人であったのと同様に、私たちを造られた神様が、私たちをあらゆる状況から助け出すために最善の方なのです。神様が私たちを造られたのは、私たちが愛するためであり、神様が被造物の中で最も大切にしている私たちと、共にいる機会をもつためなのです。

神様の真実な約束に心を留め、年が改まるこの時、私たちが神様との関係においても新たなスタートを切ることを、神様は切望しておられます。

新しい一年を通じて、神様があなたに特別な祝福を注いでくださいますように。（救世軍士官（伝道者））



救世軍本営「ゴスペルハウス」担当
畠山 真紀子 さん（救世軍江東小隊所属）

東京・神田神保町にある救世軍本営前に、六角形の建物「ゴスペルハウス」があります。昨年五月にリニューアルオープンした建物のウィンドーには、聖句入りしおりや、海外からのクラフト製品などが飾られています。「ゴスペル」とは、聖書が伝える「喜ばしい知らせ」「福音^{ふくいん}」のこと。ここで働く畠山さんにお話を伺いました。

イエス様との出会い―「見ないで信じる人は、幸い」と語りかけられて

私は、両親、両祖父母とも救世軍の士官（伝道者）で、親戚中がキリスト教という環境で育ちました。父方の祖父は行動派、母方の祖父は、朝五時から何時間も祈る祈りの士官でした。私は、ちょうど二人を足して二で割ったようなクリス

チャンだと思っています。物心ついた頃から「家が教会」という環境で、日曜日には日曜学校で聖書について学びましたが、中学生になると、「神様がいらっしゃる、この目で見なければ信じていない」と言って反抗するようにになりました。そんな

十四歳の時、イースターにおこなわれた大きな集会に行き、本田弘慈牧師の説教を聞きました。イエス様の弟子のトマスのお話でした。トマスは、イエス様の復活を信じず、「自分の指をイエス様の手の釘跡に入れてみなければ、決して信じない」と頑固に言いました。そんなトマスに、復活なさったイエス様は「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。見ないのに信じる人は、幸いである」と言われました。トマスの姿と自分が重なり、イエス様の言葉が自分に語られたように感じました。その夜、布

団に入った後、春の嵐だったのか、自宅の隣のマンションに次々と雷が落ち、ガンガンいう音と稲光に飛び起きました。一人で聖書を開き、「神様、降参します。神様がいること

オーストラリアでの学び ―十字架と私の罪を示されて

一九九五年にオーストラリアでおこなわれた救世軍の青年大会に参加して大きな感化を受け、翌年、オーストラリアにワーキングホリデーで一年間滞在しました。救世軍の兵士の家庭にホームステイし、様々な小隊（教会にあたる）や社会福祉施設を見学し、メルボルンのキャンベルウエル小隊で、ユースワーカーの訓練に参加しました。

この小隊には、士官のほかに、ソーシャルワーカー二名と、ユースリーダー、ユースワーカーが常駐していました。また、ストリートチルドレンのための家を持つていて、十代の青年たちが十名ほどいました。彼らは救世軍のサッカーやバスケットのチームでユースリーダーたちと友達になり

を信じます」と祈りました。その翌年、救世軍の兵士（信徒）になりました。しかし、当時は、イエス様の十字架と自分の罪の関わりについてはよく理解していませんでした。

青年のための礼拝へ出席するようになり、そこでイエス・キリストを知り、変えられていきました。その家の管理人も、ストリートチルドレンの経験から回復した方でした。

小隊には五十人ほどの青年が集っていて、彼らは平日もスモールグループで聖書を学び、祈り合っていました。同時に、地域の高校に早朝に出向き、貧困家庭への朝食サビスの活動もしていました。この訓練を通して、イエス・キリストの愛が人々を通して循環することが小隊を活性化させるということ、リーダーをどのように育てるのかを体験的に学びました。

また、この頃、人間関係の痛みの経験を通して、自分でもできない罪がありました。それまでの私は、自分の罪は自分の意志でコントロールできる、自分の努力で罪を犯さず、正しく生きられると思っていました。しかし、自分の罪を自覚し、イエス様が十字架で死なれたことによりその罪が赦されたこと、そして神様の目から正しい人と認められ、天国に行けることを信じました。神様が私の悪いところも良いところも、赦し、愛してくださっていることがわかりました。それからは、ありのままの自



オーストラリアの小隊の青年たちと。前列中央



分を受け入れられるようになり、他者も受け入れることができた。

弱さの中に、神様の力が一〇〇%働くことを知って

日本に戻り、二十代で北海道に引越しました。そこで結婚し、働きながら二人の子どもの子育てをしていました。

ある時、職場で同僚が突然休むようになり、数カ月後にその自宅を訪ねました。ずっと家に引きこもっていたその友人は、真夏にもかかわらず、家の中で手袋をしていました。そのことが私には衝撃的で、一緒に運動しようと、一週間に一度、

とができるようになりまし

森の中を散歩するようになりました。とにかく友人の話を傾聴して、友人のペースで散歩しました。当初十分も歩けなかった友人はしばらくして一時間歩けるようになり、心も元気になっていきました。その経験から「体と心はつながっているのでは」「もっと専門的な知識を学んで、助け手になれたら」と思い、心理学を勉強したいと思いました。一念発起して上京し、大

学で心理学を学びました。その後、公認心理師の資格をとるために大学院を受験しましたが、残念ながら落ちました。しかし、落ちたことで、これまでと違う道に進むことができました。心理学を勉強したいと思いましたが、一念発起して上京し、大

リスト)の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。」(コリントの信徒への手紙二12章9節)

この御言葉を通して、私が弱い時こそ、神様の恵みは一〇〇%注がれていて、私の弱さの中で、神様の力が一〇〇%発揮されると信じて立ち直ることができました。そして、「ゴスペルハ

ゴスペルハウスの働き—命の水のほとりに植えられた木として

「ゴスペルハウス」の目的の一つは、一般の方々が安心して入り、相談できる場所になることです。例えば、教会に興味がある方に

教会を紹介することや、相談に来る方を支援に繋げることです。もう一つは、全国の救世軍の小隊や福祉の働きをPRすることです。

最近、通りがかりの方が「今日シヨックなことがあり、その帰りにウインドーをのぞいたら、書いてある言葉に励まされたので、しおりがほしい」と、入って来られました。しおりには「あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさいません……」と書かれていました。教会に

ウス」で働き始めました。心理学では「自己効力感」という概念があります。これは、「自分がある状況において必要な行動をうまく

達成できると、自分の可能性を信じていることができる」という感覚のことですが、現在の私は「自己効力感〇%、神効力感一〇〇%」で生きています。

一度も行ったことがないとおっしゃったので、小隊をご案内しました。

ここには、いろいろな思い悩んでいる方も来られます。私は、心理学を学んで、悩みから解放される方法は、こうしなければ、というこだわりを「手放すこと」だと思いました。クリスマスチャンは、手放す相手—悩みや問題を任せられる神様を知っています。そして、手放すことで、自分の置かれていた状況を自分中心の視点ではなく、神様の視点で見ることが繋がっていくのです。私は、来訪される方

に説教したり説得したりすることはできません。来訪者のお話を傾聴し、共感し、その方が自分を第三者の視点—「神様の視点」で見ることができるようになるように、鏡になろうと心がけています。

「ゴスペルハウス」の働きを通して、神様がお一人おひとりを愛していることを、日々体験しています。

キリストのもとから流れ出る命の水の川があること、その両岸にある命の木が豊かに実を实らせ、民に癒しをもたらすことが書かれています。

「ゴスペルハウス」は、命の水の川のほとりに植えられた木で、神様が実を实らせ、人々を癒してくださると信じています。私は、この命の水の源であるイエス・キリストを一人でも多くの方々に知っていただくために、これからも神様の働きに参加させていただきたいと思っています。



昨年十月二十八日にはゴスペルハウス前で「手仕事マルシェ」を開催し、近隣の方々と交流の機会となりました。このようなイベントも折々に計画していきます。

〈ご案内〉ゴスペルハウス

月～金、10～16時オープン (祝日を除く)

東京メトロ半蔵門線、都営新宿線・三田線
「神保町」駅 A6 出口すぐ



Twitter 発信中!
@GOSPELHOUSE_JP

ゴスペルハウス～GOSPEL HOUSE～
世界最大の古書の町「神保町」
ずずらん通りの交差点にあります



マスコットのくまのエヴァです!
ツイートをみてね!

*2相手の言うことを否定せず、耳も心も傾けて相手の話を「聴く」方法

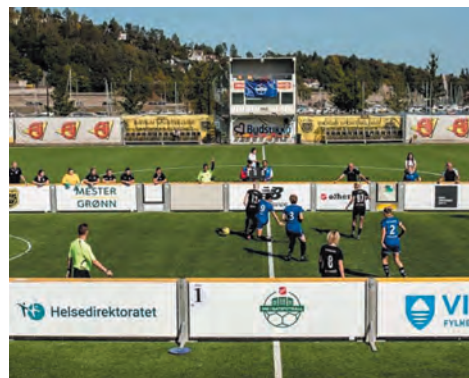
*3心理学者アルバート・バンデューラが提唱した



世界をみつめて

〈ノルウェー〉ストリートサッカー・ミニストリー

救世軍はノルウェーの首都オスロから40キロにあるコングスピング刑務所で、受刑者のためのストリートサッカー・クラブを始めました。キャッチコピーは「勝ちたければ、酒・薬物を止めよう」です。ノルウェーの救世軍は1980年から依存症からの回復リハビリプログラムとしてストリートサッカーを取り入れてきました。ノルウェー各地で20のストリートサッカー・ミニストリーをおこなっています。



〈チェコ〉新型コロナウイルスワクチン接種の推進

チェコの首都プラハの街頭生活者に、救世軍は新型コロナウイルスのワクチン接種を実施しました。ジョンソン・エンド・ジョンソン社製のワクチンを一回接種し、コロナの感染リスクを低減することを目的としています。



〈米国〉災害対応車両の導入

救世軍米国西部軍国は、太平洋沿岸地域での災害対応のために全地形対応のオフロード車を導入しました。大地震による都市災害や森林火災、雪害など、様々な災害に対応した支援活動に役立てられています。また、米国南部軍国では、全長22メートルのトレーラー車を導入しました。大規模災害時の支援活動の指揮所として機能する、最先端の機器を備えています。



す。これは、世界各地の救世軍で運用されている災害対応車両の中で最大のものとなります。

〈コンゴ民主共和国〉貧困への対策

紛争による情勢不安が続くこの国で、救世軍は養蜂の訓練プログラムを導入し、農民や村人が貧困から抜け出すのを支援しています。採取したはちみつようほうの販売が、安定した収入につながります。このプログラムは英国の救世軍の支援により、東部のカタンガとバテケの農村地帯で実施されています。



キャッサバ畑に巣箱を設置



救世軍とは？ What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界132の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)たちが来日して、救世軍の働きが始まりました。日本人最初の救世軍士官となったのは山室軍平です。ブースや山室の信仰と精神は現代にも受け継がれ、各地の救世軍で、キリストの愛と救いを伝え、困難の中にある方々に寄り添い、仕える働きが続けられています。

※現在の新型コロナウイルス感染症の影響下においても、救世軍の小隊(教会にあたる)、社会福祉施設、病院は、感染予防策に最大限努力し、活動を続けています。

オンライン 救世軍初野戦 (新年最初の伝道集会)

2022年
1月2日(日)
午後2時

救世軍公式YouTubeにて配信
どうぞご視聴ください!



救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日(除く7月)
定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円
(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。